



物流が直面するリスクを可視化して改善 「お客さまのビジネスを止めない」新サービス

いかに顧客の物流やサプライチェーンのサステナビリティ（持続可能性）を支えていけるか——。いまや物流事業者の価値や存在意義は、その解決能力にかかっているともいえる。三井倉庫ホールディングスは、いち早くその課題に正面から向き合い、パッケージ化されたソリューション「SustainaLink」を提示した。

少 子高齢化による労働力不足、頻発・甚大化する自然災害、そして新型コロナウイルスの感染拡大……。ここ数年、物流を巡る新たなリスクが顕在化し、その持続可能性に黄信号がともり始めている。SDGsやESG経営の重要性が増す中で、カーボンニュートラルの実現に向けた新たな取り組みが求められるなど、物流への社会的要請も日増しに高まっている。そうした中、三井倉庫ホールディングス（HD）では物流の持続可能性を支援していく新たなサービス「SustainaLink」（サステナリンク）の提供を開始した。同社経営企画部ESG推進室長の野口敏氏は「足元では新型コロナウイルスの感染拡大によりサプライチェーン（SC）の混乱が世界中で進むなど、持続可能なSCを構築する必要性が改めて高まっています。そこで、物流が直面するリスクに対応した『お客さまのビジネスを止めない』サービスが必要との思いから、サステナリンクを構想しました」と開発の背景を語る。

同社戦略営業部長の伊藤智光氏も「これまで当たり前のようにモノづくりや消費活動を支えてきた物流が当たり前でなくなってきた状況の中で、物流会社として何ができるのか。やはり、持続可能な物流の構築こそが物流事業者としての責務であり、今後の競争力を左右すると考えました」と思いを述べる。マトリックスを使ってリスクの「現在地」を把握

では、サステナリンクとはどのようなサービスなのか。まず物流やSCを継続していく上でのリスクを「環境」「労働力」「災害」の三つに分類。その上で、それぞれのリスクについて「知る」「可視化（見える化）」↓「改善」という3ステップを通じて課題解決に導く。

利用者にとっては、3×3の九つのマトリックスによって自社の課題がどこにあるのか、現在地がどこなのかを簡単に把握することが可能。「どんなお客さまでもサステナビリティに関して何らかの課題をお持ちです。物流におけるさまざまなリスクを網羅的に捉え、現状を見える化した上で、具体的な改善につなげる。その一連のプロセスを分かりやすく整理してパッケージにしたことがこのサービスの特徴です」（野口氏）。

このうち環境リスク対応では、CO₂排出量の「測定」「見える化」というサービスが注目を集めている。「荷主企業の多くが、自社のSCで排出しているCO₂排出量を把握できていないか、仮にできていたとしてもその精度や信頼性に問題があるというのが現状です。しかし、今後は脱炭素化に向けた社会的要請はさらに高まり、現状の対応では立ちゆかなくなりそうです。まずは排出量の可視化を通じて自社の立ち位置を知ることが重要です」（伊藤氏）。

サステナリンクのCO₂排出量の可視化では、国内輸送だけでなく国際輸送にも対応しているほか、算定手法について第三者認証機関からの妥当性評価の取得を予定するなど、信頼性にも配慮している。

「NDA（秘密保持契約）」を結んだ上で、当社との二人三脚で取り組みをスタートされるお客さまが徐々に増えてきました」と伊藤氏。「お客さまの側からすると、以前から自社のサステナビリティについて課題を感じながらもなかなか手が付けられなかった中、当社からの提案によって背中を押されたお客さまも



三井倉庫ホールディングス
野口 敏
経営企画部 ESG 推進室長



三井倉庫ホールディングス
伊藤智光
戦略営業部長

「ND A（秘密保持契約）」を結んだ上で、当社との二人三脚で取り組みをスタートされるお客さまが徐々に増えてきました」と伊藤氏。「お客さまの側からすると、以前から自社のサステナビリティについて課題を感じながらもなかなか手が付けられなかった中、当社からの提案によって背中を押されたお客さまも

「ND A（秘密保持契約）」を結んだ上で、当社との二人三脚で取り組みをスタートされるお客さまが徐々に増えてきました」と伊藤氏。「お客さまの側からすると、以前から自社のサステナビリティについて課題を感じながらもなかなか手が付けられなかった中、当社からの提案によって背中を押されたお客さまも

トランスポートという五つの中核事業会社があり、国内から国際、川上から川下まで一貫通貫による物流サービスの提供が可能。実際にモノを動かしている総合物流事業者として、机上の空論ではない、現場力に裏付けられたソリューション提案をできることがわれわれの最大の強みです」（伊藤氏）。

例えば、災害リスクに対応した代替輸送ルートの確保や在庫の分散化などについても、数多くの倉庫拠点を持ち、日々拠点間で大量のモノを動かしている経験が強みを発揮する。モーターシフトやバックアップルートの提示、共同物流の提案など、

フルスペック物流事業者ならではの「引き出し」の多さが、お客さまの事業継続リスクの軽減に役立つはず」（伊藤氏）。

さらに、サステナビリティを実現していく上で欠かせないの

がデジタル化だ。同社は昨年、グループのDX戦略を策定し、今後3年間で総額100億円のDX投資を実行していく。「データプラットフォームを構築することで、各種作業の見える化やデータ解析の精度が格段に上がります」（野口氏）。

例えば、労働力リスクへの対応では、作業分析の精度向上などにより自動化機器の導入などをサポートしていくほか、貿易など顧客自身の事務作業の工数削減などもデジタル化で貢献できるようなという。

「今後も、デジタル化などを通じてサステナリンクのサービス内容を深く、進化させていきます。グループ全体でもお客さまへの提案力を底上げできるように社員向けの研修の強化など社内体制も強化していきます」（野口氏）と、「止めない物流」の実現に向けて一層、力を入れていく考えだ。

物流の「三つのリスク」を3ステップで解決

1 環境リスク

物流によりCO₂/廃棄物が排出される



2 労働力リスク

物流の担い手が不足する



3 災害リスク

災害等発生時に物流が止まる恐れがある



STEP 1 「知る」

CO₂/廃棄物の
現行制度・
今後の動向を
知る



物流労働力の
状況・
今後の動向を
知る



災害などによる
物流リスクを
知る



STEP 2 「見える化する」

CO₂/廃棄物の
排出量を
見える化する



作業/輸送/
事務の
人員・工数を
見える化する



災害などの
物流リスクを
想定/
見える化する



STEP 3 「改善する」

CO₂/廃棄物の
排出量を
削減/相殺する



作業/輸送/
事務を効率化・
自動化し、
少人化する



災害に強い
物流体制を
構築する



問い合わせ先

三井倉庫
ホールディングス
株式会社

〒105-0003
東京都港区西新橋3-20-1
<https://www.mitsui-soko.com/sustainalink/>

